

[勝呂神社古墳]探訪レポート

勝呂神社の鳥居



勝呂神社

所在地 坂戸市大字石井

勝呂神社の祭神は白山比咩大神で、社記によると、創建は崇神天皇の御代に建淳河別命がこの地を本拠として東夷平定に当たり、命が亡くなったのち、この地に御陵を築き、東北鎮護の神として祀ったものである。

その後、寛和二年（九八六年）二月に加賀一の宮から白山比咩神社の神霊を勧請して奉祀し、郷土の信仰を得たという。

鎌倉時代になると、武蔵七党の一つ、村山党に属する須黒太郎恒高が当社を信仰し、建保元年（一一二三年）社殿を再建、以後、勝呂権現と称するに至った。

江戸時代には、郷土の産土神として多くの人々に崇敬され、三代将軍家光の慶安二年（一六四九年）には二朱印状を賜わり、以後、代々の将軍もそれに倣ったと伝えられる。

明治四十二年に大字石井内の神社十五社を合祀して勝呂神社と改称、今日に至っている。祭日は、一月の元旦祭、二月廿四日の祈年祭、三月十五日の神楽奉納となっている。

昭和五十六年三月

坂戸市

坂戸市史通史編Ⅰでは「すぐろという地名は、古代朝鮮語の村主をいうスグリから起ったといわれ、それが転訛してスグル（須久留）そしてスグロ（須黒・勝呂）になったと考えられている。『吾妻鏡』や『武蔵七党系図』には須黒あるいは須久留と書かれているが、それ以外の中世史料では勝の一字で記されており、江戸時代に入ってからそれに呂が加えられて、現在の勝呂と書くのが一般的になった」とのこと

勝呂神社の上の村社という文字がなぜか塗りつぶされている

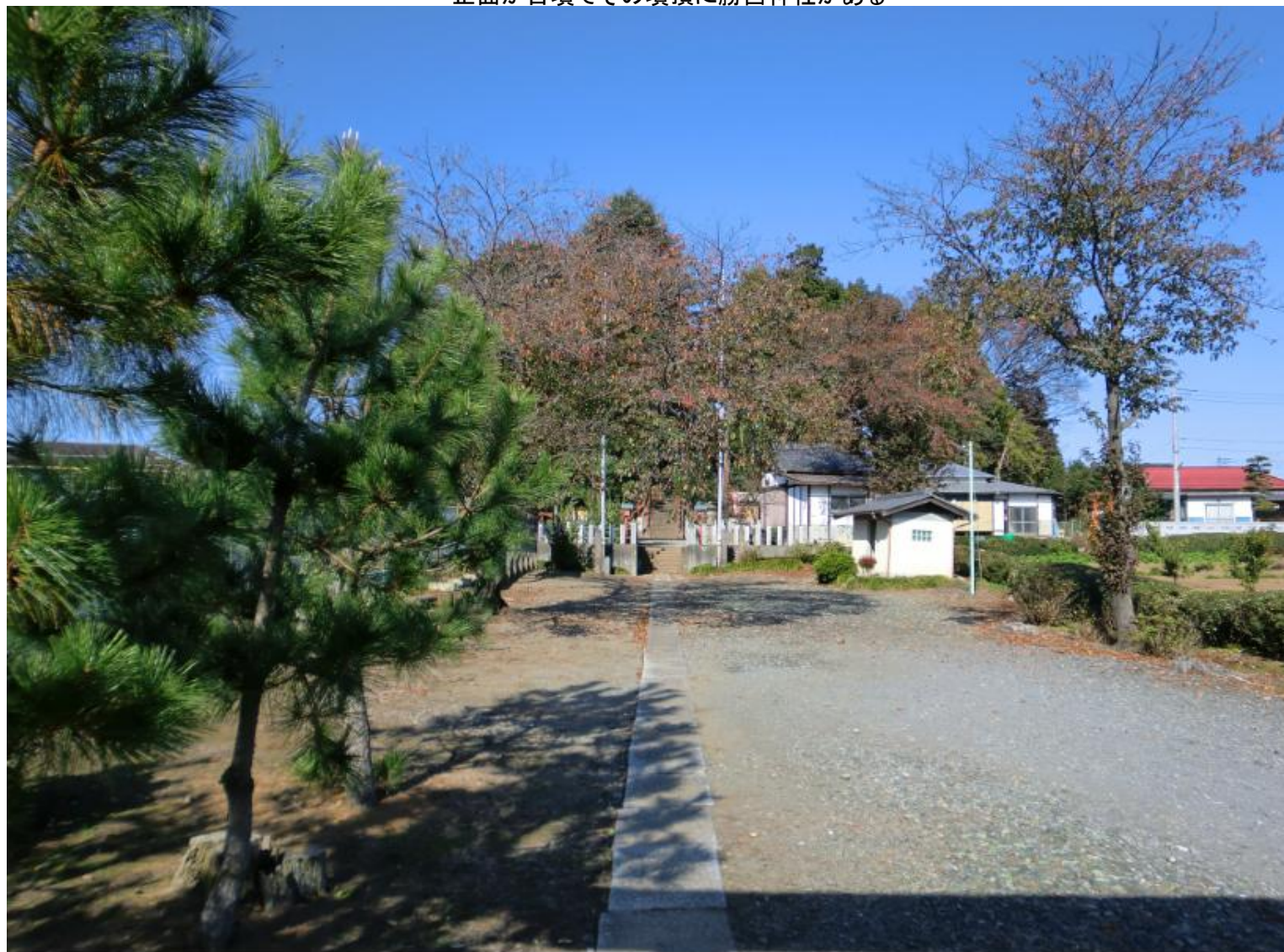




神門
石田塚
新築
子治

1956. 11. 10

正面が古墳でその墳頂に勝呂神社がある



勝呂神社古墳または白山神社古墳といわれる勝呂1号墳



各社寺に見られる廃材(再利用する)置き場があった







右手にも鳥居があった



さらに左手にも鳥居があった





拝殿





奉納
由所氏子也田信一

奉
玉
飾
大
明
神



墳丘上に建つ









後方は本殿







屋根取り合い部





本殿





















昭和50年の神社改築以前には本殿東側の杉の巨木の根部に凝灰岩の石室の切石が一部分みられたという



墳丘を見る











裏手の遠景から



舞殿





手水舎



向こうに見える大きな石に注目





この大きな石は近くの胴山古墳の石室の天井石であったと伝えられているとのこと











遠景から古墳全体を見る





インターネットより